

29TM-pm03

サザンカ (*Camellia sasanqua*) 花部の新規サポニン成分とその生物活性
吉川 雅之¹, ○森内 亮¹, 中村 誠宏¹, 濱尾 誠¹, 梅田 洋平¹, 松田 久司¹
(¹京都薬大)

【目的】 ツバキ科植物サザンカ (*Camellia sasanqua*) は日本を原産とする常緑の低木であり, その種子から得られる油脂は「サザンカ油」と呼ばれ, 軟膏基剤などとして広く用いられている. 一方, 我々はこれまでに, *Camellia*属植物チャ (*C. sinensis*),¹⁾ ツバキ (*C. japonica*),²⁾ アブラツバキ (*C. oleifera*)³⁾ 花部から多種の生体機能性サポニンを単離した. 今回, *Camellia*属植物 (花部) の機能性成分の探索研究の一環として, サザンカ (*C. sasanqua*) 花部の含有成分の探索研究に着手した.

【結果および考察】 サザンカ (*C. sasanqua*) 花部のメタノール抽出エキスを, 酢酸エチル, *n*-ブタノールおよび水にて溶媒分配した. 酢酸エチル移行部, *n*-ブタノール移行部を順相シリカゲル, 逆相 ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC を用いて繰り返し分離精製した. その結果, フラボノイド配糖体などの既知成分とともに 2 種の新規サポニン sasanquanoside A (1), B (2) を単離した. 新規成分の化学構造は, NMR などの各種物理化学データの解析および加水分解の結果から決定した. さらに, サザンカ, チャ, ツバキ, アブラツバキ花部の抽出エキスやサポニン成分について中性脂質の上昇抑制作用など生物活性を比較検討したので併せて報告する.

